

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
家庭	保育基礎	2	必修	R6・3	選択者（文系）
使用教科書	保育基礎 ようこそ、ともに育ちあう保育の世界へ（教育図書）				
副教材	保育基礎 準拠ノート（教育図書） L I F Eおとなガイド 【1年時に購入】				

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	子どもをとりまく課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2. 学習方法

<p>①教科書に沿って進めていきます。教科書準拠の学習ノートは予習・復習にも活用し、授業をよく聞き自分ならではの工夫しながら記入しましょう。学期末・学年末考査時に、学習ノートを提出してください。</p> <p>②実生活で実践できるよう、生活とのかかわりを持たせて進めていきます。学習ノートや資料集、別紙プリントを活用し、実習を行います</p> <p>③保育技術検定に取り組み、実践力を身につけます。</p>

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。また、子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。	子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。	子どもの発達や保育にかかわる職業について関心を持ち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につけている。

4. 単元の学習計画（単元ごとの評価規準）

学期	月	単元 (学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む姿勢
1 学期	4 月	第1章 子どもの保育 ①保育の意義 ②保育の環境 ③保育の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな職業が子どもや保育に直接的・間接的にかかわっており、子どもの健やかな発達に寄与していることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来における子どもへのかかわりについて、職業や、かかわる内容などを具体的に考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにかかわる職業について関心をもち、自身が希望する職業に就くために必要なことを調べるなど、情報を収集・整理しようとしている。
	5 月		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人格形成における保育の重要性を理解している。 ・保育における保護者や保育者の役割を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの保育の特徴や、保育者に求められる姿勢などについて要点をまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の意義について、自分自身が親や保育者になることを考えるなど、自分の人生観と結びつけて考えようという姿勢が見られる。
	6 月		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での養育と集団保育の役割を理解している。 ・家庭での子育ての現状と課題、国の子育て支援の内容などについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の子育て家庭が集団保育に求めていることについて、子育て環境の変化などと関連させながら具体的に考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な保育・教育施設について関心をもち、ホームページからその特色を調べるなど自ら情報を収集しようとしている。
			<ul style="list-style-type: none"> ・保育所や幼稚園、認定こども園における保育・教育の特徴を理解している。 ・保育の目標と、保育者から子どもへのはたらきかけの重要性を理解している。 ・月齢・年齢に応じた保育者の適切なかかわり方を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針などが目標とする子どもの育ちを支えるために、保育者としてどのようなことが大切か、自分の考えをもち、話し合うことができる。 ・月齢・年齢に応じた適切なかかわり方として、具体的な声かけなどの内容を考えられる。 ・家庭での養育の課題を考察しながら、子どもの心身の安定を図るために、保育者としての月齢・年齢に応じた適切なかかわり方を具体的に考え、意見をまとめたり発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身が保育者になることを想像しながら、子どもにとって適切な保育を行うためにかかわり方を工夫するなど、積極的に取り組む姿勢が見られる。

1 学 期	6 月	<p>第2章 子どもの発達 ①子どもの発達の特性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達の共通性・個性について理解している。 ・子どもの発達は、身体の発育と心や身体の機能の発達が相互に関連してなされていくことを理解している。 ・子どもの心身の発達のために、保育の環境が重要であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳などの資料を見ながら、発達の各側面が相互に関連し合っていることを読み取り、具体的に考察することができる。 	
	7 月	<p>②乳幼児の発育と発達</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発育や生理的特徴が大人とは大きく異なることを理解している。 ・発達の各側面における過程を理解している。 ・発達の過程で子どもができるようになることを、月齢や年齢に応じて挙げるができる。 ・情緒や社会性といった心の発達に関して、親や保育者との愛着形成が重要であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育施設の子どものふれ合いや、保護者へのインタビューなどを通して、子どもの発達や保育者のかかわりの特徴を具体的にまとめたり、発表したりすることができる。 ・月齢・年齢ごとの子どもの心身の発達の様子を理解した上で、子どもの個人差を考慮した適切なかかわり方を考察し、具体的に提案することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身が保育者になることを想像しながら、子どもの心身の発達を促し、子どもの気持ちに寄り添うにはどうかかわるべきかなど、主体的に捉えようとしている。
	9 月	<p>第3章 子どもの生活 ①子どもの健康と生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの養護の必要性について理解し、その発達段階に応じた適切な養護や生活援助のための技術を身につけている。 ・子どもの日常生活における世話の仕方とその役割について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣を題材にした絵本を選ぶ活動などを通じ、生活習慣の習得を促すための、保育者としての具体的なかかわり方などを考察し、工夫することができる。 	

2 学 期	10 月	②子どもの食事	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の食生活の特徴や、発達に必要なエネルギー・栄養素などについて理解している。 ・子どもの食生活の特徴に合った料理の作り方を理解し、基礎的な技術を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の子どもの食生活の変化について、健康や生活習慣に関する課題を見つけ、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。 ・料理を作る際に、食べやすさや栄養素のバランス、アレルギーに配慮するなど、工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育施設で行われている食育活動などに関心をもち、地域での子どもの食生活にかかわる取り組みについて主体的に情報を収集しようとしている。 ・調理に関心をもち、調理実習に積極的に参加している。
		〈保育実習〉		<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習において、子どもの発達や生活の特徴を調査・観察し、まとめたり発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習において、子どもの発達段階や生活の特徴を意識しながら、積極的に子どもとかかわろうとしている。
		③子どもの衣服と寝具	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達や生活の特徴から、適切な衣服・寝具の状態について理解する。 ・子どもの衣生活を支える着替えや衣服づくりの仕方を理解し、基礎的な技術を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが快適で安全な衣生活を送るために、衣服選びや着せ方をどう工夫すべきかなど、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。 ・衣服を作る際に、子どもの生活のしやすさや安全性について考慮し、工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの着替えやおむつ替えなどをする際にどのようにかかわるかなど、自分が保育者や親になったときを想像し、自分ごととして捉えようとしている。 ・被服制作に関心をもち、被服実習に積極的に参加している。
		④子どもの健康と安全	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康が免疫力や衛生環境など多様な要因から影響を受けやすく、健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解している。 ・子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 ・予防接種をはじめとする子どもの病気の予防方法について理解している。 ・家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの目線を体験する活動などを通して、家庭や保育施設における安全性についての課題を見出し、子どもを危険から守るための具体的な方法を考察することができる。 ・SDGsの目標3の観点から、現代の子どもの健康課題について考察し、自分に何ができるかなど、考えをまとめたり発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身が保育者になることを想像しながら、子どもたちの自由な生活を確保しつつ事故を防ぐにはどうしたらよいかなど、自分ごととして課題に取り組もうとしている。

	<p>11月</p>	<p>第4章子どもの福祉 ①保育にみる児童観 ②児童福祉の理念と法規・制度</p>	<p>・世界・日本の児童観や子どもの福祉の変遷の歴史が、現代のさまざまな法律や制度に生かされていることを理解している。 ・児童福祉の理念と特徴、法律や制度、福祉にかかわる施設の役割について理解している。</p>	<p>・児童虐待や貧困など、具体的な問題を通じて子どもの福祉の必要性を考察し、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。 ・すべての子どもが充実した保育を受けられるように、保育者としてできることを、個々の家庭の事情などにも配慮しながら具体的に考え、提案することができる。</p>	<p>・自身が保育者になることを想像しながら、子どもや保護者を支えることを目標にして積極的に支援策を考えようとしている。 ・保育施設と行政などが連携した子育て支援について関心を持ち、自分で情報を収集しようとしている。</p>
<p>2学期</p>	<p>12月</p>	<p>第5章子どもの文化 ①子どもの文化の意義 ②子どもの文化を支える場 ③子どもの遊び ④子どもの表現活動</p>	<p>・子どもの文化やそれを支える場の役割や意義を理解している。 ・子どもの健やかな発達が遊びによってもたらされることを理解している。 ・おもちゃ作りなどの活動を通して、子どもの遊びの特徴や、保育者としての適切なかかわり方を捉えている。 ・子どもの発達における表現活動の意義を理解している。</p>	<p>・子どもの文化の現状を捉え、今後の課題について考察することができる。 ・おもちゃづくりなどの活動を通して、子どもが楽しく安全に遊ぶことができるように工夫することができる。 ・現代の子どもの遊びを取り巻く現状を理解し、課題について考察することができる。 ・表現活動において、子どもの意欲を引き出すために保育者はどのようにかかるとよいか、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。</p>	<p>・身近な地域の遊びについて関心を持ち、公園などの利用状況や、遊び場を支えるNPO法人などの活動について積極的に調べようとしている。 ・保育施設で行われている表現活動に関心を持ち、積極的に体験しようとしている。</p>

3 学 期	1 月	<p>〈保育の課題に取り組もう〉</p> <p>〈保育の学習を振り返ろう〉</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・月齢・年齢ごとの子どもの遊びの特徴を理解し、また上で、心身の発達を促すために、適切な遊びを企画し、発表することができる。 ・これまで学習してきた内容を振り返り、保育にかかわる内容をまとめることができる。 ・子どもや保育について、学習前後の自身の考えの変化などをまとめることができる。 ・各章で提示されたSDGsの目標を達成するために、自分自身や社会はどのようなことができるか、話し合ったり、発表したりすることができる。 	<p>自身が保育者になることを想像しながら、子どもたちが楽しめるように積極的に取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育施設で行われている遊びに関心をもち、自分で情報を収集しようとしている。 ・これまで学習してきた内容を踏まえ、将来自分がどのような形で子どもにかかわっていくかをイメージしようとしている。
年 間 を 通 し て		〈保育技術検定に挑戦しよう〉	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動について、保育者として適切にかかわるための基礎的な技術を身につけている。 ・看護について、保育者として適切にかかわるための基礎的な技術を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動において、子どもの情緒や社会性などを育むことができるように、演じ方や制作方法などを工夫している。 ・看護において、子どもの安全や心の状態に十分配慮し、かかわり方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の技術に関心をもち、将来の職業を見据えながら、子どもの表現活動や健康・安全などについての理解を深めようとしている。

5. 教科担当者より

みなさんが将来、自立し、生活をするために必要な基礎的・基本的な知識や技術を学習していきます。学習したことを確実に身に付けていくためには実生活で生かしていくことが大切です。習得した知識や技術を実生活に生かしていくことができるように心がけましょう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
家庭	フードデザイン	2	選択履修	R.6・3	選択者（文系）
使用教科書	フードデザイン Food Changes LIFE（教育図書）				
副教材	基本マスター フード&クッキング レシピ+成分表 四訂版（実教出版） LIFEおとなガイド（教育図書）【1年時により継続使用】				

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2. 学習方法

<p>①教科書、食物技術検定問題集に沿って進めていきます。ノートに記入し提出してください。</p> <p>②食物技術検定4級3級に取り組むことで、知識や技術を身につけ、より一層実生活とのかかわりを持たせて進めていきます。</p> <p>③調理実習を多く取り入れています。実習中の取り組む姿勢、実習プリント等の総合評価をします。課題の提出を確実にしましょう。</p>
--

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を体系的に理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を見出し思考を深め、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	食生活に関する諸問題に関心を持ち自ら学び、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする態度を身に付けている。

4. 単元の学習計画（単元ごとの評価規準）

学期	月	単元 (学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む姿勢
1 学期	4 月	第1章 健康と食生活 ①食事の意義と役割 ②職を取り巻く現状	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の食事にどのような役割があるか理解している。 ・日本の食生活の現状と、青年期の食生活の課題を理解している。 ・よくない食生活と、それによって引き起こされる生活習慣病について理解している。 ・栄養素の摂取量や比率は時代によって変化していることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割をふまえて、自らの食生活を正しく評価している。 ・青年期の食生活の特徴を自らの生活と比較し、食生活を改善しようとしている。 ・生活習慣病を自分ごととして捉えようとしている。 ・栄養素の適正な摂取量や比率について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割を自分ごととしてとらえ、自分の食生活を見直そうとしている。 ・青年期の食生活の特徴を自らの生活と比較し、食生活を改善しようとしている。 ・生活習慣病を自分ごととして捉えようとしている。 ・栄養素の適正な摂取量や比率について考えようとしている。
	5 月	第2章 栄養素と食品 ①栄養素と消化・吸収 ②各栄養素のはたらき ③食品とその特徴 ④何をどれだけ食べる？	<ul style="list-style-type: none"> ・からだの構成成分と栄養素について基礎的な知識を身に付けている。 ・食品の消化と吸収のしくみについて理解している。 ・栄養素の種類と役割について、科学的に理解している。 ・水もからだを維持するために大切な要素であることを理解している。 ・食品の特徴、調理上の性質、調理の特徴や加工などについて理解している。 ・身の回りの加工食品と、加工の目的を理解している。 ・健康食品の種類と気をつけるべき情報を収集、整理している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・からだの構成成分と栄養素の働きから、食事の大切さについて考察している。 ・からだの中で、それぞれの栄養素がどのような働きをしているのかについてまとめたり、発表したりすることができている。 ・栄養素と食品の学習を結びつけ、日常の食事の改善点について考えている。 ・食品の加工について身近な事例と結びつけて考察している。 ・健康食品の情報や表示を正しく判断できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・からだの構成成分と栄養素の学習を、自らの健康と関連づけて考えようとしている。 ・炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質（ミネラル）などの種類、役割について食生活と関連づけて関心を持つようとしている。 ・食品の種類と特徴についての知識を、自分や家族の健康のために活用しようとしている。 ・食品の調理性などについて、実験などを通して科学的に取り組もうとしている。
	6 月				

1・2 学期	年間を通して	<p>第4章 調理してみよう</p> <p>①なぜ調理するのか</p> <p>②調理操作と調理器具</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性、栄養性、おいしさなどの面から、調理の目的を理解している。 ・食べ物の味が影響を受けている要素を理解している。 ・非加熱調理と加熱操作の種類とそれぞれの特徴を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にさまざまな調理操作を試して、取り組もうとしている。 ・調理器具の特徴としくみを理解し、具体的に試してみようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にさまざまな調理操作を試して、取り組もうとしている。 ・調理器具の特徴としくみを理解し、具体的に試してみようとしている。
	12月	<p>第5章 各国料理とコーディネート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各様式別料理の特徴や献立構成について理解している。 ・各様式別料理の作法に関するマナーやサービスを身に付けている。 ・目的に応じたテーブルコーディネート技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べる人に配慮した献立やサービスの方法について判断することができる。 ・食事のテーマに応じた色彩や照明、小物、食卓花など、食事空間の演出を判断し、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各様式別料理の献立や作法について興味を持ち、具体的に取り組もうとしている。 ・季節や食事の目的をふまえて、食卓を意欲的に演出しようとしている。
3 学期	1月	<p>第6章 食育と食育推進活動</p> <p>①食育推進の取り組み</p> <p>②食文化を見つめる</p> <p>③食と環境について考えよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食育基本法、食育推進計画等の目的や概要を理解している。 ・家庭、学校、地域等の食育活動に関連する情報を収集・整理している。 ・日本の食料自給率の現状と課題について理解している。 ・食品ロスの原因を理解しているとともに、食品ロス削減に関する取り組みの情報を収集・整理している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食と生活の関わりを、郷土料理や季節などを意識しながら考察している。 ・和食の特徴や食文化の伝承について考え、課題を見出している。 ・食品ロスに関する課題を考察し、問題点をまとめたり発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育を家庭、地域、企業はどのように推進しようとしているかに意識、関心を持ち、主体的に考えようとしている。 ・食育に関する活動を、ホームプロジェクトや学校家庭クラブにつなげて行おうとしている。 ・食と環境を関連づけて考え、具体的な取り組みにつなげようとしている。
		年間を通して	<p>〈食物技術検定に挑戦しよう〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食物調理の基礎的な知識・技術を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食物調理において調理する食材の特徴をふまえて、調理方法や盛り付け方法などを工夫している。

5. 教科担当者より

みなさんが将来、自立し、生活をするために必要な基礎的・基本的な知識や技術を学習していきます。学習したことを確実に身に付けていくためには実生活で生かしていくことが大切です。食物技術検定や調理実習を通して栄養や食品などの知識をしっかりと身に付け、技術面の向上も心がけましょう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
外国語	ディベート・ディスカッション	2	選択	R6・3	文系
使用教科書	Four Corners Level 2 (ケンブリッジ大学出版局)				
副教材					

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
日常的な話題や社会的な話題に関する論題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、賛成又は反対の立場をとった上で、論理的に一貫性のある議論を展開することができるようにする。	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2. 学習方法

(1) 授業では、様々な言語活動の目的を理解し、積極的に英語でのコミュニケーションに取り組む。
(2) 家庭学習では、授業の復習として音源を聴きながら音読を行い、重要な表現を定着させ、様々な言語活動の中で使えるようにしていく。
(3) 英検などの英語外部試験を積極的に活用し、自身の英語力の確認と向上に努める。

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りしたりすることを通して必要な情報を得たりすることができる。 日常的な話題や社会的な話題について、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして、要点や意図、論理の展開などを明確にししながら、意見や主張などを話して伝え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

4. 単元の学習計画 (単元ごとの評価規準)

学期	月	単元 (学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む姿勢
1 学期	4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 1 My interests ・Unit 2 Descriptions 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手と趣味や余暇活動などについて質問をしながら、やりとりをすることができる。 ○相手と身近な人などについて質問をしながら、やりとりをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手との会話を円滑に行うために、自分の話すスピードを調整したり、適切に相槌を打ったり、聞き返したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手との会話を円滑に行うために、自分の話すスピードを調整したり、適切に相槌を打ったり、聞き返したりしようとしている。
	5 月				
	6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 3 Rain or Shine ・Unit 4 Life at home 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手と天気に関する情報や天気応じて訪れるべき場所などについて質問をしながら、やりとりをすることができる。 ○相手と家ででの生活などについて質問をしながら、やりとりをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手との会話を円滑に行うために、自分の話すスピードを調整したり、適切に相槌を打ったり、聞き返したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手との会話を円滑に行うために、自分の話すスピードを調整したり、適切に相槌を打ったり、聞き返したりしようとしている。
7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 5 Health 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手と健康面で気をつけていることなどについて質問をしながら、やりとりをすることができる。 ○ストレスを軽減するための効果的な方法について、相手と議論することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手との会話を円滑に行うために、自分の話すスピードを調整したり、適切に相槌を打ったり、聞き返したりしている。 ○自分の考えに説得力を持たせるために、根拠を提示したり、論理展開を工夫したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手との会話を円滑に行うために、自分の話すスピードを調整したり、適切に相槌を打ったり、聞き返したりしようとしている。 ○自分の考えに説得力を持たせるために、根拠を提示したり、論理展開を工夫したりしようとしている。 	
2 学期	9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 6 What's on? 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手と好きなテレビ番組などについて質問をしながら、やりとりをすることができる。 ○テレビのメリットとデメリットについて、相手と伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手との会話を円滑に行うために、自分の話すスピードを調整したり、適切に相槌を打ったり、聞き返したりしている。 ○自分の考えに説得力を持たせるために、根拠を提示したり、論理展開を工夫したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手との会話を円滑に行うために、自分の話すスピードを調整したり、適切に相槌を打ったり、聞き返したりしようとしている。 ○自分の考えに説得力を持たせるために、根拠を提示したり、論理展開を工夫したりしようとしている。
	10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 7 Shopping 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手と好きなお店や買い物の方法などについて質問をしながら、やりとりをすることができる。 ○オンラインのメリットとデメリットについて、相手と議論することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手との会話を円滑に行うために、自分の話すスピードを調整したり、適切に相槌を打ったり、聞き返したりしている。 ○自分の考えに説得力を持たせるために、根拠を提示したり、論理展開を工夫したりしている。 ○自分の考えに説得力を持たせるために、相手の意見踏まえて、さらに自分の考えを論理的に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手との会話を円滑に行うために、自分の話すスピードを調整したり、適切に相槌を打ったり、聞き返したりしようとしている。 ○自分の考えに説得力を持たせるために、根拠を提示したり、論理展開を工夫したりしようとしている。 ○自分の考えに説得力を持たせるために、相手の意見踏まえて、さらに自分の考えを論理的に伝えようとしている。
	11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 8 Fun in the city 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が住んでいる街の魅力や訪れるべき場所などについて質問をしながら、やりとりをすることができる。 ○都会と田舎のメリットとデメリットについて、相手と議論 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手との会話を円滑に行うために、自分の話すスピードを調整したり、適切に相槌を打ったり、聞き返したりしている。 ○自分の考えに説得力を持たせるために、根拠を提示した 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手との会話を円滑に行うために、自分の話すスピードを調整したり、適切に相槌を打ったり、聞き返したりしようとしている。 ○自分の考えに説得力を持た

2 学 期			することができる。	り、論理展開を工夫したりして いる。 ○自分の考えに説得力を持た せるために、相手の意見踏まえ て、さらに自分の考えを論理的 に伝えている。	せるために、根拠を提示した り、論理展開を工夫したりしよ うとしている。 ○自分の考えに説得力を持た せるために、相手の意見踏まえ て、さらに自分の考えを論理的 に伝えようとしている。
	12 月	・Unit 9 People	○自分の過去や性格などにつ いて質問をし合いながら、やり とりをすることができる。 ○尊敬する人物について、相手 伝えることができる。	○相手との会話を円滑に行う ために、自分の話すスピードを 調整したり、適切に相槌を打っ たり、聞き返したりしている。 ○自分の考えに説得力を持た せるために、根拠を提示した り、論理展開を工夫したりして いる。	○相手との会話を円滑に行う ために、自分の話すスピードを 調整したり、適切に相槌を打っ たり、聞き返したりしようとし ている。 ○自分の考えに説得力を持た せるために、根拠を提示した り、論理展開を工夫したりしよ うとしている。
3 学 期	1 月	・Unit 10 In a restaurant	○食歴やおすすめのレストラン などについて質問をし合い ながら、やりとりをすること ができる。 ○自炊と外食のメリットとデ メリットについて、相手と議論 することができる。	○相手との会話を円滑に行う ために、自分の話すスピードを 調整したり、適切に相槌を打っ たり、聞き返したりしている。 ○自分の考えに説得力を持た せるために、根拠を提示した り、論理展開を工夫したりして いる。 ○自分の考えに説得力を持た せるために、相手の意見踏まえ て、さらに自分の考えを論理的 に伝えている。	○相手との会話を円滑に行う ために、自分の話すスピードを 調整したり、適切に相槌を打っ たり、聞き返したりしようとし ている。 ○自分の考えに説得力を持た せるために、根拠を提示した り、論理展開を工夫したりしよ うとしている。 ○自分の考えに説得力を持た せるために、相手の意見踏まえ て、さらに自分の考えを論理的 に伝えようとしている。
	2 月	・Unit 11 Entertainment	○好きな映画や歌手、ミュージ シャンなどについて質問をし 合いながら、やりとりをこと ができる。 ○映画鑑賞やコンサートの観 覧などを含めて週末の過ごし 方を相手に提案することがで きる。	○相手との会話を円滑に行う ために、自分の話すスピードを 調整したり、適切に相槌を打っ たり、聞き返したりしている。 ○自分の提案を相手に賛同し てもらうために、学級内での調 査結果やネット上の調査結果 を効果的に使っている。	○相手との会話を円滑に行う ために、自分の話すスピードを 調整したり、適切に相槌を打っ たり、聞き返したりしようとし ている。 ○自分の提案を相手に賛同し てもらうために、学級内での調 査結果やネット上の調査結果 を効果的に使おうとしている。
	3 月	・Unit 12 Time for Change	○将来の夢や変化をもたらし てくれた経験などについて質 問をし合いながら、やりとりを することができる。 ○人が成長するために必要な 経験について、相手と議論す ることができる。	○相手との会話を円滑に行う ために、自分の話すスピードを 調整したり、適切に相槌を打っ たり、聞き返したりしている。 ○自分の考えに説得力を持た せるために、根拠を提示した り、論理展開を工夫したりして いる。	○相手との会話を円滑に行う ために、自分の話すスピードを 調整したり、適切に相槌を打っ たり、聞き返したりしようとし ている。 ○自分の考えに説得力を持た せるために、根拠を提示した り、論理展開を工夫したりして いる。

5. 教科担当者より

外国語によるコミュニケーション能力を育成するために、授業内での言語活動を通して、特にスピーキング（やりとり、発表）・ライティングの2技能3分野に渡る英語力を高めていきます。1学期の後半からは、授業の中でディスカッションやディベートを実際に行なっていきます。そうした言語活動を通して、相手を納得させることができる論理的な伝え方について学んでいきましょう。議論をしていく上では、日常的・社会的な話題に関する知識が必要となってくるので、新聞やニュースに触れることを習慣にし、教養を身につけておきましょう。